

小樽国際観光客誘致キャンペーン in シドニー

(背景) 平成18年4月に「小樽市観光基本計画」を策定
小樽観光の目指すべき4つの都市像の一つ「路をつなぐまち・おたる」において、観光プロモーションの推進を基本方針に掲げている。
その実現に向けた主要施策の一つが「国際観光プロモーションの推進」であり、その中に、アジア、オセアニア圏の国々を中心に、国や観光関連団体等と連携を図りながら、効果的な観光プロモーションの展開を明記
その具体化として、JNTO(日本政府観光局)等の協力を得て、今回、シドニーでのキャンペーンを実施した。

(目的) 豪州においては、日本＝スキーというイメージが定着
北海道、特にニセコは、「パウダースノー」とスキーリゾートとして恵まれた環境が、オーストラリア人スキーヤーの心を強く引き付けている。

【豪州からの平成19年度の宿泊延べ数】

倶知安町89,503人(道内1位)、ニセコ町6,577人(道内5位)

一方、小樽市においては442人とどまっている。

(小樽市への実宿泊者数は、341人)

本市は、ニセコ地区に比して、新千歳空港からアクセスやアフタースキーの面での優位性があり、特に、小樽雪あかりの路という北海道を代表するイベントを開催していることや職人による製作体験など、日本の文化を感じさせる小樽ならではの観光メニューを紹介し、ニセコへ来訪しているオーストラリア人や本国からの新たな顧客の獲得に向けた取組を展開し、オーストラリアからの観光入込客数の増加を図る。

(会場) 「ぱしふいっくびいなす」8Fメインホール (ダーリングハーバーに停泊)

(使節団) 市長を団長とする11名の使節団

(団 長)小樽市長 山田 勝磨
(副団長)商工会議所 副会頭 西條 文雪
(")観光協会 副会長 中村 全博 ほか団員8名

(内 容) 観光PR(雪あかりの路、スキー場、製作体験など)
 懇親会(小樽の食(寿司、しゃこ、ラーメン、日本酒、ワインなど)の紹介)
 握り寿司体験教室の実演



粗 在シドニー日本国総領事



堀内JNTOシドニー事務所長



(参加者数)	豪州のジャーナリスト、旅行会社	61名
	在シドニー日本国総領事、JNTO等	9名
	計	70名

- (総 評)
- ・ 円高豪ドル安により、日本を訪問する豪州観光客は減速しているが、平成20年は通年では、前年を上回る見通しとのこと。
 - ・ 外的要因の好転に備えた誘客戦略が必要
 - ・ 豪州人スキー客にスキー以外のアトラクションを楽しんでもらうためのプラスアルファが求められている。 雪あかりの路、体験型観光
 - ・ 小樽の知名度は、まだまだ低く、引き続き、知名度浸透のための情報発信が必要